

## 会議名 第32回ニセコ町観光戦略会議

開催日 平成25年3月27日	会議時間	開会 PM 6:30 閉会 PM 8:00
会議場所 ニセコ町役場 第2会議室	記録者	商工観光課観光戦略推進係 主任 川埜 満寿夫
出席者 委員：渡辺委員、片岡委員、瀧澤委員、服部委員、吉村委員、関委員、木下委員、 事務局：山本商工観光課長、小椋観光戦略係長、川埜主任		
欠席者 委員：大久保委員、加藤委員、宮崎委員、樫原委員、北島委員、葛西委員		

### 会議日程

### 報告事項

- |                           |     |
|---------------------------|-----|
| (1) 観光客認知度・興味度調査の結果報告について | 資料1 |
| (2) ニセコ町観光振興計画の改訂について     | 資料2 |
| (3) ニセコ観光局について            | 資料3 |

### 協議事項

- (4) ニセコ町の観光振興について（フリートーク）

### 会議内容

今回の会議では、前回の会議で委員より提案のあった観光振興についての意見交換（フリートーク）をメインに進行した。

報告事項については、事務局から、資料1～3に基づき説明。

意見交換では、2月1日に開催した観光客満足度調査結果報告会の資料なども使いながら進行。

#### （主な意見）

##### <2次交通関係>

- ・デマンドバスはとても便利（観光利用にも）。ただ、時間帯によっては予約電話がまったく通じないことがある。
- ・今シーズンはタクシーも好調と聞いている。  
→冬期の利用者の絶対数を考えれば、デマンドバスが夜間運行しても、タクシー会社への影響はほとんどないのでは。  
→外国人利用者が大多数。日本人は1割弱の実感。倶知安市街だけでなく、ニセコ市街の飲食店への利用もある。
- ・今シーズン、アンヌプリのゴンドラが止まることが多く、その時のユナイテッドシヤトルの混雑は相当だった。
- ・モイワスキー場でもバスを走らせているが、運行時間の関係でアンヌプリ、東山は寄らず、ヒラフへの運行となっている。  
→モイワからアンヌプリへ抜ける林道が冬期も使えれば、客を運ぶルートとして使える。ヒルトンからヒラフ方面に抜ける道路もできれば、相当な時間短縮になる。

- ・観光協会でも「湯めぐりバス」の復活を検討している。

#### <会議開催など>

- ・意見交換会など役場で開催しているが、参加者が少ない。さびしく感じる。
- ・準都市計画のときなどは、チラシだけで多く集まっていた。関心度合いによる。  
→観光が地元の主力産業で、経済への波及効果もあることなど、認識が低いのでは。
- ・HPなどで開催案内をしているが、なかなか伝わりにくい。個別にFAXを送るなどもしたほうがいい。また、チラシなどは固くなりがちなので、もう少しポップに。

#### <観光資源など>

- ・ニセコ町は夏も体験メニューが豊富。ひらふ地区もコンドミニアム利用の長期滞在が増えているが、それでも夏の賑わいはニセコ町が中心。もっと夏をメインでPRしてもいい。
- ・ニセコ町のイベントは、単なる客呼びのイベントに留まらず、多様で地域の素材を生かしているものが多い。
- ・ピクニックをしたり、写真を撮ったり、花を見たり、利用者がそれぞれ楽しめる公園があるといい。有島のサフォーク牧場跡地などいいのでは。
- ・クローバー摘みなど、親子やカップルでコミュニケーションが取れるような仕掛けがあるといい。送迎をしていて、車内でまったく会話のない親子が多い。
- ・アンヌプリの斜面で花の種を撒いたことがあったが、地盤がよくなく、流されて定着しなかった。
- ・以前、商工会主体で花畑整備の構想を作った。町内で羊蹄山やアンヌプリが見通せるなど、立地条件の良い場所はある。ただ、費用がかかりすぎるため実現に至っていない。

#### <満足度調査結果から>

- ・シニア層の満足度の低さから、夏のニセコの体験メニューは、若者向けが中心だったと感じている。シニア層は何を求めているのかを考え、ニセコの観光資源を結び付加価値を高めて、提供していく取組みが必要。
- ・日本のシニア層は、グレードが高い難しさがある。豪華客船や世界遺産めぐりなどの客は、今はほとんどシニア層。単に自然の良さだけでは満足しない。人工的でもハイクラスな演出も必要。逆にいえば、日本のシニア層に満足いただけるようになれば、観光地としての評価も上がる。

#### <スキー場利用状況>

- ・若い客が少なくなっている。
- ・スラロームの大会を開いても、参加者は半分が子ども、残りの半分が50代以上など、2極化して間の層がない。今度70代のクラスを作るほど、熱心なシニア層も多く、参加者も増えている。
- ・大会運営を通じて、お金をかけなくても、あるものを生かし手間をかけて適切なフィールドを用意すれば、それを求める客層が自然と集まってくると感じている。

- ・スキー大会の開催がほとんどなくなっている。  
→スキー場としての開催メリットがない。

<その他>

- ・夏休み期間中、家族向けにラジオ体操を行っているが好評。特に親が喜んでいる。  
ハンコを押すと、子どもも喜ぶ。スタッフの手配だけですぐできるのでお勧め。また、宿泊施設としても、早い時間の朝食利用にも繋がるというメリットもある。
- ・LCC利用の若い客層も増えてきているように感じている。

5 その他

次回の開催は、広域での観光関係者との意見交換の場として開催することで日程調整する。  
委員からは、GW明けの開催を希望する意見があり、考慮する。